

# 第4回 大島学園 学園運営協議会 議事録

R5.10.19

## 1. 開会行事

会長挨拶、 学校長挨拶、 日程説明

## 2 2学期の児童生徒の学習の様子について

- ・みあれ祭では、陸上神幸の際に小学部の子どもたちが鼓笛隊として先導したことや中学部の男子生徒が御座船に乗船したことについて伝えた。また、今年度は、1年生から9年生までが参加し、女子児童生徒は観光船でみあれ祭についての説明を行ったり自分たちが製作した缶バッジを配布したり、5、6年生の子どもたちは開発にかかわった甘夏ジェリーの販売を行ったりしたことについて伝えた。
- ・10月7日（土）に行われた大島全島運動会の様子についても1年生から9年生の子どもたちが、互いに支え合いながら取り組んだことについて伝えた。

## 3. 熟議

### ○ フェリー通学について

#### 立花課長

フェリー通学の件につきましては、PTAの皆さんをはじめ学校長にもいろいろな意見を聞かせていただきまして私どももまず案という形で叩き台を作っている状況。その中で様々な課題も出てきておりますので、実現するためにまず課題についてどう解決していくのかご意見いただきながら進めていきたいと思っています。

(資料を提示し、フェリー通学についての説明)

#### 阿部校長

予算がかかってくることなので、教育的効果だけでなく大島全体として地域活性とか地域にとってどんないいことがあるのかということを考えていかなければならない。学校にとっては、こんないいことがありますよ、こんなことができるようになりますということを職員とも議論しながらあげています。一定期間9か年同じ人間関係で育っていく子どもたちにとっては、地域の異なる子どもたちとの出会いは大変重要となってくると思うし、より質の高い社会性や規範意識の向上というのが期待できる。15になったら島をでる。いろんな文化とか地域性を持った子どもたちが集まるから違いを認め合ったり個性を認め合ったり、いわゆる多様性とか、うちの子どもたちにとってもプラス。また、競争意識、ずっと同じメンバーでやる中に入ってくることによって切磋琢磨するいい意味での競争意識が生まれてくる。子どもが増えれば、職員の定数も増える。そうすれば、余裕ができて働き方改革にもつながるなど学校としてはまとめている。では、地域としては子どもたちが通学するという事でどんないいことがあるかを分かれて、意見を頂けたらと思います。

(地域として、保護者として分かれて話し合う)

#### [地域]

- ・佐藤隆数(大島コミュニティ運営協議会会長)
- ・古賀達也(元PTA会長、観光協会大島支部長)
- ・奥村智美(大島保育所園長)くり課課長)
- ・本田悦子(大島コミュニティ運営協議会事務局長)
- ・久保春奈(COPおおしま代表、日の里48委員)
- ・阿部龍彦(大島学園校長)

#### [家庭]

- ・草野隆則(大島学園PTA会長)
- ・福崎利佐(大島学園PTA母親代表)
- ・片山亮子(大島学園教頭)
- ・村上誠(大島学園教諭)
- ・佐藤淳也(大島学園PTA副会長)
- ・金川絵里(大島学園母親代表)
- ・松木大輔(大島学園主幹教諭)

## 地域意見

- 将来的には、大島に住みたいと思って移住して下さるようにしていきたい。
- 人口減、産業衰退、空き家の整備遅れ、子供数減、学校存続の危機。  
すべて悪循環である。学校のみの問題ではなく、行政のアプローチから島の改革を行っていかなければならない。
- 島外から来る子供はもちろん、親も不安であたまらないと思う。そんな時に、安心していただける島でなくてはならない。  
保護者は島に打ち解けたいと思っていても「よそ者感」で見られているのでは・・・と不安は必ず抱く。(よそから来た人の気持ちがよく理解ができる。)だからこそ受け入れる島は「安心してどうぞ!と迎え入れる空気感を作っていかなければならない。島の人の意識を変えないといけない。
- 学校を核に親同士のコミュニティが深まれば、島のコミュニティの和も広がる。

## 保護者意見

- 昔から、地島みたいに漁村留学をすればよいのと思っていた。子どもが大島学園に入れば、大人は行事等に参加し交流が増える。それをきっかけに移住が増えれば、島としてもメリットがある。
- 学校がなくなったら、島は衰退する。今、フェリー通学の話が出たことは本当にいいタイミング。今考えなければならぬ。子どもが行きたいと言えば、親は動く。
- 学年に一人しか男の子がいないので、同級生に同性の生徒が増えたりするとよい。
- 「男子だけ」「女子だけ」のクラスに異性が入ることで、コミュニケーション力を高めたり、社会性が身についたりする。
- 生きていく上で、いろんな人とかかわっていくのでそれを早くできる。
- 島にフェリー通学をしようとする子どもは何かしらの事情はあるかもしれない。でも何とかなる
- 今でも、転入生があれば、子どもたちは嬉しそう。親としては子どもの笑顔が見れる。
- 島民以外の人が入ることで、多様性、社会性を学ぶことができる。
- (学園を卒業して)島を出たとき、楽しめる子もいるが、不安に思う子もいる。島外の人と関わる機会が増えるのはよい。

## 3 指導助言 【宗像市教育委員会 石川 聡 指導主事】

地域と一体となって子どもたちを育てていくことの素晴らしさを感じました。運動会でも家族のように皆さんが温かい中で競技に参加されている様子を見てとても良かったです。熟議の際、地域の中に入れていただいて、フェリー通学というものを長い目で見ていただいていることを感じました。フェリー通学をきっかけにして、いかに大島の地域を活性化していくためにはいろんな人の力が必要なことが伝わってきました。ありがとうございました。

## 4 閉会行事

### 佐々木主幹指導主事

宗像市2学期になってマスコミからの取材が殺到している。自由が丘の給食、ストローレス日の里中・赤間西小、視察もたくさん入ってきている。城山学園の学園協議会を見せてほしい等、宗像の教育が注目されている。大島学園で感動したのは、運動会のダンスを先生の知らないところで団長さんが休んでいる子どもに教えに行っていたということがすばらしいと思いました。誰からも頼まれず自ら考えて行動している。CSの目標に掲げている皆さんが目指している子どもの姿に近づいているなと思ってうれしい気持ちになりました。フェリー通学について議論いただいてありがとうございます。学園運営協議会の皆さんが何よりもまず学校の活性化と考えてくださって嬉しく思います。離島の振興計画がある。例えば、高齢者が働ける環境が欲しいんだとか、島に宿泊してもらえらる仕組みが欲しいとか、そういったご意見も島全体にある。島全体で、何よりもフェリー通学かということを丁寧に議論してほしい。ここに残られる方、今までの島を作ってきてくださった方々もフェリー通学とってくださっているのかが知りたい。そういったご意見が、でてくるといいなと思います。本日は、ありがとうございます。